

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 29日

事業所名 キッズサポートアイアイ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	13			基準値をクリアしたスペースとなっている。
	2	職員の配置数は適切である	13			適切な配置となっている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1	12	着替えの場所やクールダウンの場所、活動の場所等、環境の構造化をしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	13		毎朝、棚や畳、おもちゃなどの消毒をして整理整頓、清潔を心がけている。勉強机に仕切りがついており、集中しやすい環境を作っている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	13		PDCAサイクルによる業務改善を図っている	朝のミーティングと月は週案検討会、火、木は職員会、金は、ケース会議と研修を行い 全員態勢で、取り組んでいる
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13			今後も保護者の意向を全体で把握し、業務改善を行うよう努める。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13		支援の質の評価及び改善の内容を、会報やホームページ等で公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	13		外部による評価を受け、アドバイスを改善に生かしている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13		毎月、定例で研修の機会を確保している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	13		モニタリング会議をして、職員の意見を聴き、作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13		標準化されたアセスメントツールを使用し、実態把握をしている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	13		児童発達支援の提供すべき支援内容から、具体的な項目を選択して支援内容を設定している。	全職員がガイドラインの内容を把握できるよう、年度初めには全体研修を実施する。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	13		ケース会議にて共通確認をしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	13		年計、月案、週案等計画立案に携わっている	日々の姿から身につけたい活動を取り入れている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13		幅広く情報を収集し、実態に即して選択	チームでプログラムを話し合い固定化しないように工夫している
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	13		バランスを考慮しニーズに応じた活動を実施	新しい情報を積極的に取り入れている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	13		週案を元に、日案の予定を確認している。	一日の流れ、職員の配置分担など話し合っている。
	18	13		共通理解、情報の共有最優先事項としている	児童の送迎があり職員の帰宅時間がバラバラなので、翌日の朝に振り返りや気づいた点などを話し合っている。
	19	13		各職員が日々の記録を活用している。	
	20	13		モニタリング会議において見直し検討	
関係機関や保護者との連携	21	13		児発管による参画を主としている。	
	22	13			必要に応じて参加をし、関係機関と連携した支援を行っている。
	23		13		該当なし
	24		13		該当なし
	25	13			必要に応じて、関係機関と連携した支援を行っている。
	26	13			移行時に、情報共有を行っている。
	27	13			外部研修への積極的な参加を奨励する。
	28	13			公園や児童館、教会のイベント等に参加して地域の児童との交流を図っている。
	29	12	1		代表参加を行っている。
	30	13		送迎時の利用やライン、電話等を活用	今後も、出来るようになった事や頑張った事、課題等を送迎やお迎え時に保護者へ伝えていきます。
31	13			定期的に行っている。	
32	13			契約時に分かりやすく丁寧にを行っています。	
33	13			計画の同意の際には、こまめに分かりやすく説明していきたい	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13		非定期で、個別の相談を実施	定期的なモニタリング等や、悩みや児童に対する対応の仕方など、相談があった際には支援を行っていきます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	7		
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	13			申し入れがあった場合には迅速に対応しているが、周知の工夫が必要。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13		毎月、予定を配布し、ホームページで公開、発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	13		誓約書を通して周知	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	12		感染症が落ち着いてきたので、イベントを計画中。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している			年2回は定例で実施臨時でも各月ごとに実施している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13			月に1回おこなっている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	13		ケース会議で確認	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	13		ケース会議で確認	対応がなされている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13		危険回避、安全意識の向上を図るため、共有を徹底している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13		所内研修及び外部研修を実施。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	13		研修を行い共通理解している	該当事例なし

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。